

2008（平成20）年度

# 松戸特別支援学校との

## 第1回交流会

（2008年10月30日・31日実施）

### 感想文集



人権委員会交流会担当

## 2008年度 松戸支援学校との第1回交流会感想文

### 1年生

(1) 今回私がこの交流会に参加した理由は、将来福祉関係の仕事に就くことを考えていたからです。実際に松戸特別支援学校に行って同じ学年の人たちと交流してみて、「障害を持っていても私達と何もかわらないんだな。」と思いました。

交流会初日はちゃんと仲良くできるか、とても不安でしたが、クラスに入ってみたら松特の生徒さんから挨拶をしてくれたので緊張がほぐれました。話してみると、明るい人が多くてとても接しやすかったです。年が近いということもあって、ペアの人とはすぐに仲良くなれました。しかしペアではない人とはあまりたくさん喋ることができなかつたので、2日目にはもっといろんな人と仲良くなりたいと思いました。英語の授業でやった福笑いでは簡単な単語だけを使ってみんなで盛り上がってできたので、楽しかったです。

2日目は、先生が言っていたとおり、初日の緊張感がうそのように、みんなとたくさん話をすることができました。この日の午前中は全体で「からだ」の授業ということで、まず最初に六実生だけでタオルを使った体操(?)をしました。ただ松特生のお手伝いをするだけでなく、自分達も同じことを実際に体験することで、「こうされると嫌だ」とか、「こうした方がからだはリラックスする」ということがわかり、それを生かすことができたと思います。その後は松特祭のリハーサルでした。小学部から高等部の全校生徒が体育館に集まって実行委員が司会をして・・・という流れで、本当に私達がやっていることと何も変わりませんでした。今年の松特祭のテーマソングの「世界が一つになるまで」をみんなで手話つきで歌ったり、松特ダンスを踊ったりしました。みんな障害を持っているとは思えないほど元気で、盛り上がっていました。午後は音楽の授業で、一緒に歌を歌ったりリコーダーを演奏したりしました。手がうまく動かせない人は先生に手伝ってもらったりして全員で合奏することができました。「自分でできることは自分でやる」というのが松特の方針なので、少しでも自由が利く人は、他人任せにしないで自分でやろうと頑張っていました。それを陰ながら支えるのが先生の仕事だそうです。この2日間の交流会をとおして、松特の生徒さんと仲良くなれたことが何より嬉しかったです。今まで「福祉の仕事＝老人の介護」と勝手に結びつけて考えていたけど、将来老人の介護をする仕事に就くのではなく、松特のような学校で教師として障害のある人達のお手伝いをする仕事に就くことも考えてみようかなと思いました。

(2) 最初、私は松戸特別支援学校の皆さんとなじめるか、交流するのは同じ高校生と聞いていましたが、正直障害を持った人とは関わったことがなかつたので、どのように接していいかわからなくて不安でした。でも行ってみると、私達と同じ高校生でした。考えていることも、興味のあることも、学校生活でやることも、大体同じです。勉強内容が国数英理社の5教科あり、英検にも積極的に挑戦していてびっくりしました。

2日目になると気軽に話しかけられるようになり、打ち解けて、仲良くなれた気がします。それがすごくうれしかったです。でも1つ困ったのは、しゃべることがあまり得意ではない障害を持った子と会話をしたときに、なかなか聞き取ってあげられなくて、すごく向こうの相手に悪い思いをさせたように思うことです。松戸特別支援学校の先生は、そういう時は聞き返したほうがよい、本人にとっても、こうしゃべると聞き取りづらいのだな、と勉強になるとおっしゃっていました。でも、松特の先生と生徒が話している時は、普通に楽しそうな会話が成り立っていて、やっぱり私が聞き取ってあげられなかつ

たんだなと感じました。

(3) 私は松戸特別支援学校に行き、普段は接することのない方々との貴重な交流ができたと思います。松戸特別支援学校には、いろいろな障害を持った方がいましたが、みんな元気で明るい人ばかりでした。そして、私達が話しかけると、いつもうれしそうに答えてくれました。

私が松戸特別支援学校に行き、思ったことは、みんな自分たちと同じ気持ちでいるということ。交流会に参加することで、相手に対する意識が変わったということ。みんな自分たちが持っている最大限の力を使って一生懸命頑張っていること。そして私が一番困ったのは、相手と話している中で言葉を聞き取れないときがあったことです。私が一番うれしかったのは2日目にみんなの方からたくさん話しかけてきてくれたことです。

私は今回、この交流会に参加しようか、迷っていました。その時、友達に誘われて参加することにしました。初めはちゃんと接することができるのかという不安でいっぱいでしたが、自分なりに相手のことを考えながら接することができたのでよかったです。また次回も、松戸特別支援学校との交流会に参加したいと思います。

(4) 私が今回この交流会に参加したいと思ったのは、なんとなく面白そうだったからです。交流して、仲良くなったりできればいいな、楽しそうだなと思いました。でも、実際何をやるんだろう、と始めは不安ばかりでした。ちゃんと話せるか、仲良くできるか、心配でした。

不安しかないまま、朝9:00過ぎ、それぞれのクラスに入りました。最初は自己紹介で、六実生がやった後に松特生が自己紹介してくれました。みんな明るくて、自分の好きなことなどを話してくれて、この時、私の不安は一気に消えました。

その後、体操や文化祭の準備を一緒にしました。ペアになった先輩は作業のやり方や松特のことなどをいっぱい話してくれました。その先輩はミシンがとても上手でした。午後は英語の授業でした。福笑いをペアでやることになりました。その時私のペアの先輩が、「こっちこっち!!」と私に手招きしてくれて、先輩のところに行くと、私の手をぎゅっと握ってくれました。嬉しかったです。

2日目は、文化祭の開祭式のリハーサルでした。体育館へ向かう途中、2年生2人が車椅子で競争していて、すごく速くてついていけませんでした。リハーサルでは、うまくしゃべれない障害を持った生徒会長の先輩が、文化祭のスローガンを一生懸命言っていた姿に感動しました。それから全校生徒で松特ダンスや「世界が1つになるまで」を歌ったりしました。クラスが一緒の先輩が手話を教えてくれました。嬉しかったです。昼休みに、修学旅行で大阪に行ったという話をしてくれました。うまく話すことができなくても一生懸命説明してくれました。聞き取った言葉を繰り返すと、うんうんと、嬉しそうにうなずいてくれました。私もそれを見て嬉しくなりました。午後は音楽でした。みんなで歌を歌ったり、リコーダーを吹いたりしました。嬉しかったです。帰りの会で、松特生のみなさん1人1人から交流会の感想を聞きました。ちょっとじーんときてしまいました。

本当に嬉しかったです。いろいろな人と関わって、相手のことをいろいろ知ることができて、本当に行き良かったと思いました。また来年も行きたいです。

(5) 松戸特別支援学校との交流会を通じて、たくさんの友達ができ良かったです。最初は言葉がうまく通じないため、戸惑いもあったけど、手で感情表現をしてくれたり、目

で合図してくれたりしたとき、すごくうれしかったです。あまり心を開いてくれない人もいたけど、2日目には、少しでも仲良くなれてよかったです。今回の交流会を通して、言葉以外のコミュニケーションのとり方や車椅子の押し方や身体のマッサージを学ぶことができ、すごく自分のためになりました。またこのような機会があったら、ぜひ参加したいです。

(6) 私が交流会を通して感じたことは、『楽しい』です。

1日目、初めて顔を合わせたとき、私は緊張してしまい、表情が強張っていました。ですが、1組の生徒さんや先生方が笑顔で迎えてくれて、とても嬉しかったです。

最初の授業で体の体操がありました。パートナーの子がやり方を教えてくれ、楽しくて、嬉しかったです。

松特祭の準備で『なんだってぬぐい』を作りました。そのときもパートナーがミシンの使い方を教えてくれて、2人で楽しくやりました。初日最後の授業は英語で、みんなで福笑いをやりました。本当に、クラスには笑いが絶えなくてすごく楽しかったです。1日目だけでもすごく仲良くなれて、嬉しかったです。

2日目は、松特祭の予行練習がありました。みんなで松特祭のテーマソングの手話をしたり、松特ダンスを踊ったりしてすごく楽しかったです。

最後は音楽の時間で、みんなで歌を歌ったり、リコーダーを吹いたり、修学旅行の話をしてくれたりして、今まで話したことのない人ともたくさん話せました。帰りのHRでも、いろいろと話して、さらにさらに仲良くなれました。

来年も是非行きたいです。

(7) 私はこの交流会で沢山のことを体験し、感じました。担当したクラスは1・2・3年1組で、いろいろな学年の人がいました。最初はどうか対応したらいいのか、わからないことでいっぱいでした。手足が不自由で、ほとんどの人が車イスを使用していました。特に私が担当した人の車イスはボタン1つで上下に動いたり、進んだり、ライトがついたりするものでした。値段は200万円ほどするそうです。他にもエレベーターは広く、スクールバスは車イス専用の車、靴は自分の足に合ったものなど、バリアフリーが進んでいました。

昔に比べて日々生活で使用するものは便利になってきて、どんな人でも暮らしやすい社会になっていると思います。昔はバリアフリーという言葉もなく、常に誰かに頼っていたのかもしれないと思います。私は体の不自由な人を助けて共に生活していくことも、もちろん大切なことだと思うけれど、1人でも今の社会で生活していける環境を作っていくことも重要だと思います。しかし、自動の車イスもオーダーメイドの靴も、誰にでも買える価格ではないと思うので、もう少しいろいろな面で、改善されていけばよいと思います。

他に感じたことは、みんな音楽が好きだということです。英語の授業でも音楽の授業でも、集会のときでも、楽しそうに歌っていました。音楽は人を明るくする力があるので、常に音楽が流れていることはみんなにとってもとてもよいと思いました。

あまり交流がなかった私も、2日間支援学校へ行って学んだことは、普段感じることもないことばかりでした。この経験を生かして、これからも生活していきたいです。

(8) 私が特別支援学校に行った1日目、プレイルームで担当の先生のお話を聞いていると、後ろから元気な挨拶が聞こえてきました。その挨拶をしてくれた人は、私達の訪問をととても喜んでくれていました。私はそれをうれしく思い、みんなと仲良くなりたいという

思いが強まりました。その後、クラスごとに分かれて交流しました。

私が行ったクラスは1年生のクラスで、男子6人、女子2人のクラスでした。このクラスには話ができる子もできない子もいたけど、みんなに話しかけることができよかったです。また、支援学校の先生と話すことによって、その子について詳しく知ることができ、たくさんのことを学ぶことができました。そして、もっと長い時間を一緒に過ごして仲良くなりたいと思いました。

私は特別支援学校の教員の仕事に興味があって、この交流会に参加したのですが、その気持ちもより強くなり、また参加したいと思いました。この交流会に参加したことは貴重な体験となり、自分自身成長できたと思います。

(9) 私が交流会に参加して一番感じたことは、障害があっても不自由なことはいっぱいあるけど、松戸特別支援学校の生徒はとっても明るく、のびのびと生活しているということです。私がこの交流会に行く前に想像していた所とは全く違ってびっくりしました。よそ者(?)の私達にもフレンドリーに接してくれて、すごく楽しかったです。他人を貶めたりしない、心優しい人々がいっぱいいて、とても良い学校だなあと感じました。また来年も参加したいです。

(10) 私は今回松戸特別支援学校との交流会に行って、本当によかったと思っています。初めはすごく緊張しました。何をすればいいのか、どう接したらいいのか、何を話せばいいのか、何もわからず戸惑ってしまいました。でも、支援学校の子の方から話しかけに来てくれて、その緊張はあつという間にほぐれました。先生方も、明るくてとってもいい方達ばかりで、すごくいい体験をさせていただいたなと思っています。

中でも一番心に残っているのは、文化祭の準備とフィナーレの予行です。文化祭の準備では、紙すき班と染色班に分かれて、2つの作業をしました。それぞれが、自分の仕事を文句を言わずにやっていたのを見て、感動しました。それをフィナーレでは、生徒だけですべてやっていて、自分達と何も変わらないんだということがよくわかりました。歌を歌う場面では、先生たちがピアノやサックス、ギターやドラムで伴奏をしていて、自分達以上にすごいなと思いました。

それからもう1つ。すごくすごく学んだことがありました。それは笑顔が大切だということ、はたから見たら先生達が教えている立場に思えるけど、実は先生達自身も生徒達からいろんなことを学んでいるということがわかりました。すごく貴重な体験を、ありがとうございました。

(11) 松戸特別支援学校に2日間行って、始めはどんな障害があっても、何をすればいいのか、何をすればいいのか、全然わからなかった。しかも初めてすることが多くて困った。でも、車イスを押すたびにきちんと声をかけたり、相手に聞こえているかどうかかわからなかったけれど、言われたとおりにやってみた。すると、1日目は全然表情がつかめず、何が言いたいかわからなかったけど、自分が積極的に話しかけて、知ろうと思って行動したら、2日目には、前の日より相手は何をしたいのかがわかるような気がしたし、ニコッと笑ってくれたことが、すごくうれしかった。

体験をとおして、自分ができることは、最大限自分でやろうとしていてすごいと思った。人を知ろうとするときに、自分を知ってもらって、自分から心を開いて信じれば、相手もいろんなことを話してくれ、信じてくれることを学んだ。松戸特別支援学校に行って、たくさ

んのことを学べたり、初めて車イスを押したり、いろいろな体験ができて、すごくよかったと思いました。また来年も今年やったことを生かして行きたいなあと思いました。

(12) 2日間という短い間だったけど、行ってよかったなと思います。自分にとっていい体験ができました。一緒に文化祭の準備をしたり、会話をしたり、とても楽しかったです。1日目はわからないことや慣れないことばかりで大変だったけど、2日目はみんなから話しかけてくれ、いろいろと教えてくれて、1日目よりもみんなと仲良くできました。今回は交流会だけで、文化祭の手伝いには行けなかったのが、機会があったら是非参加したいと思います。

(13) 2日間松特生と交流して、1日目はあまり慣れることができず、翌日もあると思うと正直気が重かったです。ただ先生に言われたことだけをやっていて、松特生の気持ちを考えられませんでした。

2日目は、もっと自分から接してみようと挑戦してみました。朝の体操の時間に、松特生に、「おはようございます。」とか、いろいろ話しかけてみたり、手を握ったりもしました。1日目には見られなかった笑顔が見られて、とても嬉しかったです。午後の活動で、一緒にやった子に名前を覚えてもらったときもすごく嬉しかったです。

この交流に参加して、相手にどんなときにどんなことをしたら助けになるかを考えるようになりました。そして、人の笑顔には特別な力があって、見ているほうも笑顔に慣れるんだと知りました。また行きたいです。

(14) 私は、松戸特別支援学校の人たちと交流したのは、今回が2回目でした。1回目は運動会の応援の手伝いをしたときでした。

運動会の手伝いのときは戸惑ってしまって、なかなか積極的に行動することができませんでした。なので、今回の交流会の話聞いたときは、もう一度という気持ちもあり、参加することに決めました。交流会の内容は、体操・文化祭の準備などでした。以前のときと違って、「ボランティア」ではなく「交流会」なので、担当したクラスが2年生で、1つ年上なのに普通に話しかけて楽しめました。

私が一番交流した子は、あまりしゃべらない子でした。でも、歌を歌ったときにすごくノリノリで、一番いい笑顔を見せてくれたときはすごくうれしかったです。また、その子だけではなく、同じクラスのいろいろな人と体操をしたり話をしたりと、たくさんの人と触れ合うことができました。私は今回、普段味わうことのできない貴重な体験ができたと思います。本当によかったです。

(15) 正直に言います。今の自分にはまだ、障害を持った人たちは自分とは少し違うと考えてしまう部分があります。この考えがとても失礼だと言うことはわかります。頭ではわかっているのに、自分で作り出してしまった「普通」というものをなかなか壊すことができません。辛いです。

こんな自分は交流会でたくさんのことを得ました。たった2日間だったけど。どんな日より貴重な2日間でした。

私は高校2年生の「後藤ちづるさん」という方に出会いました。「彼女はよく目が見えない」と先生から聞いたときは、案の定、「かわいそうだな」という思いが何よりも先に立ちました。だけど全然そんなんじゃないくて……。言いたいことがうまくまとまりませんが、

ちっともちづるのことを知らなかった私がちづるのことを語れるわけがない。先入観だけで人を判断するなんて馬鹿げているし、本当に自分が恥ずかしくなりました。私が2日間で知った「後藤ちづる」という人物は、プロレスがすき、音楽が鳴ると踊りだす、かぼちゃプリンが好き、嬉しいとき体を激しく揺らす、ピンク色が好き、髪を2つに結っている、木づちを打つのが上手いなど・・・。

2日間1人の存在の大切さをこれだけ実感できました。交流会に参加してよかったです。

## 2年生

(1) 私は、今回で二回目の参加となりました。松特の生徒と交流をして楽しかったし、色々考えさせられました。

様々な病気をかかえている子ども達にそれぞれの対応をすると言う事はいかに大変かということ、ちょっとしたことで心臓が止まってしまうこともあると言う“命”と隣あわせということ、最初は松特の先生って大変だなあと思いました。でも、松特の先生は大変そうだけど大変そうじゃなかった。みんな笑顔で先生達が楽しんでました。そして、先生が笑顔だと生徒も笑顔だった。言葉でつたわらなくってもこうやって伝わる方法もあると言うことを学んだ。

松特に今回も参加して良かった。来年も参加したい。

(2) 私は1年生の時も交流会に参加したので2回目の交流でした。去年は楽しみの中にも心配だなという気持ちが強かったのですが今年は少し心配はあったけれど楽しみだなという気持ちのほうが強かったです。私は自分と同じ学年の2年生のクラスで交流しました。昨年沢山交流をした子とまた同じクラスで交流できてすごく嬉しかったです。

今年も昨年と同様に「松特祭」の準備をしました。私達は「ハガキ作り」を一緒にやりました。松特の生徒は手を上手につかうことがあまりできないので松特特製の手作り機械みたいのがあります。先生達はみんなのことがわかってるからできるのだろうなあと思います。先生は「売り物だからいい加減につくらない。」と言います。優しい時としっかり言う時と…きりかえが速くてすごいなあと思いました。松特の生徒は先生が大好きだと思います。私ももし先生になることができたなら松特の先生のようになりたいです。

今年は昨年より沢山の生徒と交流できたと思います。やっぱり一緒に話すことができる子は少人数だし急にあばれだしてしまう子など様々な子がいて困ったりすることも何度かあったけど笑顔になってくれたり手を握ってくれたり…ささいなことだけど私にはとっても嬉しかったです。なので私は来年も交流会に参加したい！と強く思いました。

(3) 今年も松戸特別支援学校との交流ができて、とてもうれしく思います。去年同じクラスだった人と結構会うことができ、うれしかったです。去年と変わらず、みんな元気そうでした!!

また来年も、ぜひ参加させていただきたいと思います。

(4) 今回の交流をふりかえると、“楽しかった”の一言に尽きると思います。松特にはよく行かせてもらっているのですが、今回はまた新しい出会いもふえ、たくさんの友達が

できました。

交流会で一緒だった子は初めて知った子で、最初はお互いに気持ちが読み切れず、”今相手がどう思っているか”ということがわからず、苦労しました。でも、相手の表現することや表情を理解しようとする中で、少しずつ互いに理解を深めることができたと感じました。2日間はあっという間で、すぐに過ぎてしまいました。まだまだ本当に仲良くなるまでにはいたっていないと感じました。でも、最後の見送りの時に、バイバイ、と手をふったら、あまり動かすことのできない手でふり返してくれたのを見て、すごくうれしくなりました。互いの気持ちが本当に通じ合った時だと感じました。

### 3年生

(1) 私は、今回で3回目の交流会でした。偶然にも、1年の時に入ったクラスと同じクラスに入りました。松特の3年2組は、生徒7人、先生3人のクラスです。障害の程度は、それぞれかなり異なります。2年振りに皆と会った第1印象は、「みんな成長したなあ！」ということでした。体力が無くほとんど寝ていた子が、ずっと起きている事ができる様になるとか、大きな変化ではない、ほんの小さな変化ですが、私はすごく感動しました。

そして、今回もいろいろ考えさせられました。彼らは、本当に些細な事にもすごく時間が掛かったり、自分1人でできる事がとても少なかったりします。彼らは片手間に何かをするという事はできません。何をしても、本当に一生懸命、時間を掛けてやらなければならないなりません。私たちが普段何気なくやっている事を、彼らは、私たちの何倍もの時間を掛けてやっています。自分の出来る事は、自分の力で遣り遂げる訓練をしているのです。

「今、出来る事をやり続けていかないと、何も出来なくなってしまうから」と松特の先生は言います。そんな姿を見ていると、私たちはもっと一生懸命生きていかなければならないなと思いました。私たちは普段、車椅子を押す機会や、障害を持っている『同い年』の子と接する機会などはほとんどありません。この交流会は私たちにとっても松特の子にとってもすごく大切なものと実感しました。私たちは無意識のうちに障害を持っているというだけで、変に距離をとったり、特別扱いをしたりしてしまいがちです。しかし、松特ではどんなに知能・身体能力が遅れていても一人ひとりを『18才の高校生』として扱います。こういうことって、すごく大切な事だし、簡単なことのように思うけど実際は、なかなかできることではないと思います。自分でトイレに行くことが出来なかったり、固形物が全く食べれなかったりする子もたくさんいます。体も私たちより何倍も小さいです。それでも同い年なんです。すごく心が痛くなりました。だからこそ私たちは、松特の子たちの様に、自分が出来る最大限のことを精一杯やらなくてはいけないのだと思います。松特の先生はとても明るく面白い方ばかりです。3年2組は、話せない子が多いけど、クラス内はとても明るいです。先生方は、1人ひとりのことをすごく理解しています。先生の仕事は本当に大変です。だけど、普段ほとんど表情がない子が、嬉しい時にはすごくいい笑顔をしてくれます。その笑顔が先生方をすごく支えているのだと思います。

前回の交流会の時に会った男子の顔が見えないので、先生に理由を聞くと、彼は今入院中だと聞かされました。改めて、松特の子たちは、命のギリギリの所に居るんだということを感じ知らされました。そして、彼らは、松特を卒業したあと、将来どうしていくのだろうと心配になりました。自分が心を開けば、相手も心を開いてくれます。何事も相手と

同じ目線に立つことがすごく大切なのだとわかりました。と同時に、松特の子達が大人になっても、一緒に幸せになれる社会を作っていかなければいけないと思いました。

(2) 私が交流会に参加する前、松特のような子たちと小学校～中学校まで関わっていたので、「松特の子とはすぐ仲良くなれるだろう」と簡単に考えていました。ですが、実際に教室に入ってみると、「何すれば良いのだろう。どうやって接すれば良いのだろう。」という気持ちになりました。こんな不安を抱えたまま1日目終了しました。

2日目は、1日目より積極的に動けたし、松特の子たちの気持ちも分かるようになったと思います。この2日間の交流会で、松特の子たちから、パワー、元気、笑顔、勇気ももらいました。本当に良い影響を受けました。この影響を今後の人生、生活に活かしていきたいです。また、今後地域や学校でこのような交流会などが行われる時には、積極的に参加し、障害を持った人が住みやすい街づくりになれば良いと思います。

(3) 1日目は、緊張と戸惑いの気持ちでどうやって接しよう…どうすればいいのかな？ってことばかり考えていました。上手くしゃべれない子や車椅子の子もいて、近くにいても作り笑いをしている自分の姿があったりして、楽しかったという気持ちよりも障害を持った子達と仲良くなることって難しい…って気持ちの方が大きかったです。でも、2日目は全然違う自分の姿や考えに驚きました！松特祭のリハーサルの時には、一緒にダンスをして自然に楽しむことができたし、上手くしゃべれない子とも作業を通して仲良くなれました。上手くしゃべれなくても顔の表情で自分の気持ちを私に伝えようとしてくれるのかなあと感じました。松特の子達はかわいくて、笑顔が絶えなくてキラキラした姿が印象的でした。私が一緒に交流したクラスの子は私達が来ることを本当に楽しみにしてくれていたり、私達のことを知ろうと質問をしてくれてとてもうれしかったです。私のことも「六実高校生。」ではなくて名前で呼んでくれたこともうれしかったです。障害を持っていると、距離を置いてしまって、相手の手助けをしよう、力になろうという気持ちで接してしまうことが多いけれど、そうではないのだと思いました。私が交流した子達は私達と同じ高校生だったからこそ、一人の障害者ではなく、一人の友達として相手を見て、接することが自然だと思いました。障害者は私達と違う人と思うから、どのように接していいのかわからなかったり、戸惑ったりするのだと思います。確かに私達があたり前にできないかもしれない。それでも同じ人間だから、接することで相手のことをわかることができると思います。例えば、感情が上手くコントロールできなくて暴れている子がいたら、障害者だからしょうがないと思うのではなくて、なんで暴れているのかな？というように相手の立場に立って考えてみたり、相手を知ろうとする姿勢を持つことを心がけることで相手への接し方も変わって来ると思うからです。このことは障害者に接する時に限らず人と人がコミュニケーションをとる上で大事なことだと思いました。今回この交流会に参加して、障害を持つ人達への考え方や接し方が自分の中で変わりました。参加してよかったです。また、機会があれば遊びに行きたいと思いました！

(4) 私は今年初めて松戸特別支援学校へ行きました。そして、行って早々、驚かされました。ある部屋に入った時、みんな体操をしているのかなあと思ったのですが、違いました。専門技術を持った先生が、生徒の体をひっぱったり、ほぐしたり、なでたり、様々な方法を取って、かたまっていく体の進行を止める運動をしていました。私は目の前で障害

の恐さを知りました。この運動をしないと、筋肉は動かなくなり、関節は、かたまってしまふそうです。毎日その運動をしても、動かせるカ所は減っていくそうです。それでも、みんなとても笑顔で、私自身、とても元気をもらいました。

松戸特別支援学校は、ほぼマンツーマンで、生徒に先生がついていてすごいと思いました。

マキちゃんと一緒に布染めをして、先生方が手作りで機械を造ったらしく、感動し、とても楽しかったです。

私は、支援学校に行って、担当のクラスに入って早々、クラスの生徒の子に頭をつかまれ、手をはなしてくれませんでした。私は、気に入ってくれたのかな？などと思って、嫌と言いませんでした。正直「しょうがない」と思っていたのかもしれませんが。でも、支援学校の先生に私は注意されました。「嫌な事されたら嫌！と教えてください。将来、この子が電車に乗って、チカンでもしてしまったら大変です。」私は確かにそうだなあと思いました。でも悪気のない子に、怒るのも難しく…でも優しく言う事を聞いてはくれず、やはり毎日一緒に生活している先生方はすごいと思いました。六実に遊びに来てくれた時は、一緒に授業をうけ、かなこちゃんの優しい声にいやされました。また会いたいです。

私は、とても良い経験ができて良かったです。車いすの動かし方も学びました。

(5) 私はこういった交流会などに参加するのは初めてで、正直怖かったし、行く前は期待と不安が入り混じってました。1日目は思っていたより全然壁のようなものは無く、多少戸惑いはあったけど、逆に松特の生徒から話しかけてくれたり、興味を持ってくれたりしたので、とても気持ちが楽になりました。でもどこまで手伝ったらいいのか、どこまでやってもらったらいいいのか、という境目が良くわからなくて困る場面がいくつかありました。

2日目は不安も無くなり、車椅子もなんとか普通に押せるようになり、自分から積極的に話しかけたり、歌ったり踊ったりすることも出来るようになりました。

そうすると話す事が難しい子もたまに目を合わせてくれたり、笑っているような表情や声を出してくれるようになって嬉しかったです。2日目の反省会のときに松特の先生が「君達が変わったから松特の生徒達も変わったんだよ。」というような話があって、この2日間を振り返ってみるとまさにその通りだなと思いました。今までは自分から壁を作っていたんだということがわかりました。みんなの笑顔を見ているとこっちまで笑顔になり、さらに元気までもらっているような感じがしました。大変なんだけど松特の先生達がこの仕事をやめられない理由がよくわかりました。

この2日間は本当にあっという間で、今までの自分の見方がもの凄く変わった気がしました。松特の交流会に参加出来て本当によかったです。

(6) 私は、今回初めて参加しました。最初は、どうやってコミュニケーションをとったらいいのかわからず、なかなかなじむことができませんでした。しかし、松特の生徒さんが「六実高校とたくさん遊びたいな〜」や「六実高校が来てくれて嬉しいな〜」と会話の中で何度も何度も繰り返して言っていたので、こんなに楽しみにしてくれていたのに、いつまでもオドオドとしていたらいけないと思い、ただ、純粹に、松特の生徒さんたちと楽しもうと思えました。1日目の作業の時間では、「いつもよりすごい!!やっぱり女子高生効果かな？(笑)」とおっしゃってくださり、いい刺激になって良かったなと思えた時

間でした。また、一つ一つ作業を終えるごとに満面の笑みを私に向けてくれるので、楽しいかな？嬉しいかな？と少しずつコミュニケーションをとることができるようになり、私自身も楽しくすごすことができました。2日目は、松特祭の予行練習ということで、体育館で歌ったり、ダンスしたりと、とても楽しい時間ばかりでした。帰りの会で、感想を言う時になると、あ、もう終わるのかー…もっと一緒に遊びたかったなー…という思いでいっぱいでした。最後、お見送りの時に、保健室で、一緒に母親が来るのに待っていたのですが、突然、先生が「最後だから、抱っこしてみる？（笑）」とおっしゃり、抱っこさせていただきました!!私にとっても、抱っこされた生徒さんにも良い経験になったのではないかと思います。（笑）終わって家に帰り、ソファーに座ってボーとしていた時にふと思ったのが「楽しかった」でした。なんで1、2年生の時から参加しなかったんだろうと、今になって後悔しました。けれど、3年の最後で参加して良かったと本当に思いました。だから、来年新1、2、3年になる子たち!!楽しいから参加した方が良いですよ!!と、大声で言いたいです!!

今度、松特の生徒さんが六実に来てくれるのが楽しみです。早くみんなに会いたいです!!

私の人生の中で、本当に大切な時間になったし、一生心に残る交流会でした。松特の生徒さん、先生方、本当にありがとうございました。

(7) 最初は全く面識の無い方たちと交流することは難しく少し恥ずかしく思いました。しかし、向こうから「名前は何?」「今日は六実の生徒が来る事凄く楽しみにしていた」と言われた瞬間、緊張は解け気恥ずかしい思いも段々と消えていきました。

交流をしていくなかで一番難しかった事は、手がマヒしている方と一緒に作業することでした。

一緒に作業するとなってもやはり手をあまり動かさないため私一人の作業になってしまう事が多かったと思います。次やる時は一緒にできたら良いなと思いましたが私の参加が30日のみだったので「一緒に作業」という目標があまりできなく少し残念でした。

昼食後は少し時間があつたのでボールで遊んだり、窓に物を貼る作業を一緒にやったりと、とてもゆったりする事ができました。

文化祭も近いたため午後も作業を行い、交流する時間もあつと言う間に過ぎていきました。

今回の目標だった「松特の人と友達になる」と言う目標は自分なりにには達成できたのではないかと思います。

今回の交流会は自分が進む将来の勉強にかなりなつたと思います。

今度は松特の人が六実に交流しに来る日をかなり楽しみにしています。

(8) 私の中学校には、「8組さん」という知的障害者のいるクラスがありました。そこでは、どの生徒もみんな当たり前のように仲が良く、私たちの間に壁や不自由さを感じたことはありませんでした。だから、今回の交流会もきっと何も困らずに普通に過ごせると思っていました。しかし、いざ初めて松戸支援学校に行ってみると、たくさんさんの車いすが並べてありました。「あれ?」と思って、そこで初めて身体障害のある子もいるのだと知りました。実際、それぞれのクラスへ行ってみると、自分の想像していた以上に障害の重い子がたくさんいて、驚いてしまいました。しかし、支援学校の先生方から、「同じ高校生としてしゃべって下さい。」と教えていただいたので、なるべくみんなと同じ目線で、好きな芸能人の話やテレビの話など、普段と同じ口調で会話するようにしました。すると、

とても楽しそうに返してくれたりして、とても嬉しかったです。それでも、1番難しかったのは「言葉のない子」との関わり方でした。いつも周りにはいるのは当たり前のように会話のできる人たちばかりなので、初めての経験で正直戸惑ってしまいました。でも、1日を通して一緒に過ごしていくうちに、「今、何をして欲しいのかな。」とか、「今、喜んでいいるのかな。」とか、自分も考えながら話しかけてあげればいいんだとわかりました。世の中には、本当に色々な人がいます。今回のように、身体や脳に障害をもった人や、怒りやすい性格の人、太った人、やせた人、本当に十人十色ですが、どんな人に対しても、同じように素直に接していくことが大切なんだと学びました。とても良い経験になりました。

#### <担当教員より>

感想文を読むと、交流を通じて今年も色々なことを学び感じ取ってくれたことが分かり、とても嬉しく思います。障害を持った高校生が、遠くから眺めているだけでは分からないことでも、間近で話したり一緒に活動することで、自分たちと変わらない高校生であることなど、感じ取ってくれていました。

松戸特別支援学校は身体障害を持った人達の学校で、障害を重複して持っている人も多く、中には言葉がうまく伝わらない生徒もいますが、そのような人達とは言葉とは違うコミュニケーションで交流していたことも印象的です。

このような交流はそれ自体意義のあることですが、君たちは高校生なので、感想文の中にもあったように、松戸特別支援学校の人達が高校を卒業した後のことも考えてもらいたいと思います。昨年の秋から深刻化した日本の経済状況の中で、障害を持った人達が地域の中で暮らしていくことはより困難を伴うものとなっていくかもしれません。障害を持った人達を含めて、誰もが一緒に差別なく平等に幸せに暮らすことができる社会を造るためにはどうしたらよいか、考えていって欲しいと思います。